

住みよいまちづく

意見交換会での質疑応答の内容から一部を抜粋してお知らせします。

震災の検証と伝達を

問 東日本大震災の津波被害から学べることでがたくさんあるにもかかわらず、しっかりとした検証が不足している。今後被害を出さないためにもしっかりと検証し、文面等で伝えていかなければならない。

答 防災計画は作られたが、国・県等から示された指針等に基づく部分も多く、実際の各個人の動きとしては不十分な面も多々あるため、整備する必要があると思ふ。

万全な災害対策を

問 山田の広い土地は土砂災害でできていくことをまず認識する必要がある。

岩泉や宮古など、台風10号により被災した河川

の事例を間近で見られる場所がある。そのような場所を行政職員と議員と一緒に視察すべきでは。

答 二級河川は県管理のため、対策における連携が難しい部分もあるのが現状。県が河川の全てを把握しているわけではなく、さらに現在岩泉等に目が向いているため、行政職員や議員が情報発信をしつかり行っていくかなければいけない。

災害公営住宅・高台団地の状況は

問 災害公営住宅や団地は全部埋まるのか。

答 アンケートを取り、意見を集約して建設しているが、アンケートを取った当時とニーズが変わり、空きがある団地や住宅がある。

新斎場敷地造成工事の報道の経緯は

問 新斎場敷地造成工事に関する報道が、岩手日報に掲載されていたが、どのような経緯であったのか。

答 議員が気付かず報道であったが、町が誤って契約金額を記載したものであり、議員はそのことを知る術がなかった。第6回臨時会（平成28年11月25日）においても、副町長から間違いは全て町側にあると謝罪があった。

定住対策の検討を

問 働く所がなければ若い人たちは定住しない。若い人たちが定住する対策を考えてもらいたい。

答 高速道路の開通に伴い、工業団地の整備、企業の誘致が必要と思われる。

不漁に伴う対策は

問 本年度はサケなども不漁だが、町として対策は考えているか。

答 不漁だからといって町から漁協等への援助をすることはない。

アワビやナマコの種苗放流をしたり、養殖の種代を出したりするなどの取り組みを行っている。

議会改革検討特別委員会とは

問 議会改革検討特別委員会とは。

答 議会活動を今より良くするため、仕組みを変えるための検討をしている。

例えば議会からの情報発信を強化するよう、議会をインターネット中継するなどといったことが議題に上がっている。

意見交換会の運営に対する意見

- 個人的な意見も取り入れられるように。全員が話すように仕向けることが大切では。
- 参加人数が少ないので何か工夫が必要と思う。
- 住民への周知方法を考えるべき。
- 議会の内容が見えたとと思う。
- 時間帯が早い。

質問、意見、要望等の全文は議会ホームページでご覧いただけます。